



飯能ロータリークラブ会報

桜の中央公園と天覧山

© photo by Hiroyuki Maejima

ロータリーは機会の扉を開く

RI会長 ホルガー・クナーク

2570地区ガバナー 相原 茂吉

第3グループ
ガバナー補佐 西澤 長次

Let's make fellows! 友達をつくろう

第2954例会 2021. 3. 31

—— 水 と 衛 生 月 間 ——

天候 晴 (NO. 57-40)

会長 田辺 實 幹事 森 健二

例会日 水曜日(12:30~13:30) 当番 坂本(厚)君、塩川君

例会場: ホテル・ヘリテイジ飯能sta.

☎(042)975-1313 〒357-0038 飯能市仲町11-21

事務局: 飯能商工会議所内 〒357-0032 飯能市本町1-7

☎(042)973-1661 FAX(042)973-1662

http://www.hanno-rc.org/ E-mail: hannorc@hanno.jp

- ・点鐘 田辺会長
 - ・ソング 我等の生業 四つのテスト
 - ・ロータリーの目的唱和 山口職業奉仕委員
 - ・卓話 佐々木 翔会員 鈴木勝彦会員
- 《昼食はテイクアウト》

【会長報告】

桜花が満開、よい季節となりました。先週から例会を再開させて頂きましたが飯能地区においては未だ感染が発生している状況です。一人ひとりが感染予防への注意を払い、安心出来る環境を早くつくりたいものです。

第28回目の会長3分間スピーチとなります。「澆刺颯爽(はつらつきさそう)」

近所にそれ程大きくはないが手入れの行き届いた庭をもつ家があった。植木もきれいに手を加えられ季節の花々がいつも彩り鮮やかに咲き道行く人の目を楽しませ、心を和ませていた。

ある日突然その家の主人であった人が亡くなり、若い夫婦が二人、その家に住むようになった。それから数か月。道行く人の目を楽しませていた庭は見る見るうちに荒れ果て、無残な姿になった。同じ庭がこうも変わってしまうのか。一種、哀しいような思いでその庭を道すがら眺めている。

心の時代と言われている。しかし、人間の心とはそれ程きれいなものではない。人間の心は宇宙、自然と似ていると言えなくもない。雑草は放っておいてもまたたく間に繁茂する。しかし美しい花は水を与え肥料をやり虫を避け丹精込めて育てなければ花は咲かない。人間の心もそれと同じである。放っておくと雑草が生える。心の花を咲かせるためには絶えず心を見張り雑草を抜き取らなければならない。

二宮尊徳は「あらゆる荒蕪は人間の心の荒蕪

(こうぶ)から起こる」と言った。そして心を荒れ放題にしないためには絶えず心の田んぼ、つまり「心田を耕さなければならない」と説いた。

いつも気持ちを爽やかにしておく。いつも颯爽とした気分で居る。「澆刺颯爽」こそ心の雑草を取り、心の花を咲かせるために欠かせない、必須の条件である。

人を幸せに導く三つの田んぼ「三福田(さんぶくでん)」

お釈迦様は、人を幸せにする三つの田んぼがあると言う。それを「三福田」と言う。

一番目は「敬田(きょうでん)」。敬う者をもつ、理想を掲げると言う事。「これが自分の理想だ」という人をもつ。到底その人のようにはなれないが、どこまでもこの人を目指すのだというものを常にもつ。すると幸せになれると言うのである。

二番目は「恩田(おんでん)」。ご恩を思う事。人間は一人では決して生きていけない。相互に依存し合って互いに助け合っているという事を常に忘れてはいけない。それが幸せに繋がる。

三つめは「悲田(ひでん)」。周りに対する憐れみをもつ、他人の苦しみや悲しみを知る心をもつ。この三つの心をもっていれば苦しみの中にあっても幸せに生きていく事が出来る、とのお釈迦様の教え。「三福田」を心がけたいものです。

【幹事報告】

◎例会変更のお知らせ

◇人間南RC

・4/13(火) 例会場(丸広7F) さくら草ホール

・4/20(火) 例会取止め(定款8-1-C)

・4/27(火) 例会取止め(定款8-1-C)

◇所沢RC

・4/13(火) 定款の規定により休会

・4/20(火) 通常例会(予定) 点鐘11時 所沢商工会議所

- ・ 4/27(火) 通常例会(予定) 点鐘11時 所沢商工会議所
- ◇新所沢RC
- ・ 4/13(火) 移動例会
- ・ 4/20(火) 例会取消(クラブ細則5条)
- ・ 4/27(火) 例会取消(クラブ細則5条)

◎石倉直治会員ご挨拶

4/1付で埼玉りそな銀行秩父支店に異動となり、これをもってお別れとなります。入会して2年2か月、大変お世話になり有難うございました。

【ロータリーの友】 本間雑誌委員

3月号ご紹介。3月は「水と衛生月間」。横組P7～特集「安全できれいな水を考える」。世界で水道水をそのまま飲む国は日本を含めて12か国。貴重な水についての各地のRC活動を紹介。東日本大震災から10年。P22～被災されたロータリアンが当時の状況やRCの活動等について語っています。縦組P14～入間南RC大野会員、日高RC野口、高木会員の俳句が掲載。

【出席報告】 MU・無届欠席0 馬場出席向上委員

会員数	当日	前々回修正		
全数	対象	出席数	出席率	出席率
69名	6名	59名	85.51%	コロナ感染症感染防止対策のため休会 修正ありません

【SAA報告】

◎ニコニコBOX

- ・ 例会が再開されましたが会食を中止しテイクアウトにさせて頂いております。来月からは通常に戻したいと思っておりますのでよろしくお願い致します。 田辺会長
 - ・ 結婚記念日お祝い有難うございます。吉田(健)君
 - ・ 大学2年砲丸娘、今シーズン初戦15m97自己ベスト更新、日本歴代10位です。 大野(康)君
 - ・ 誕生日祝い有難うございます。昨年のクリスマス例会においてビンゴ大会で1位になり高額なプレゼントを頂き有難うございました。 前島君
- 本日計16,000円、累計額874,001円。
◎7日例会当番は吉澤、高橋会員です。

【卓話】

講師紹介 伊澤プログラム委員長
佐々木会員は昨年7/15入会、「飯能法律事務所」所長、弁護士。鈴木(勝)会員は昨年9/16入会、「(株)セーフティユニオン」専務取締役です。

イニシエーション・スピーチ

飯能RC 佐々木 翔 会員
飯能RC 鈴木 勝彦 会員



佐々木会員 昔から夏には飯能河原に遊びに来たりしていましたが実家は西東京市で最寄駅は「ひばりが丘」です。両親はH12年に日本で介護保険制度が始まって以来介護保険事業に携わってきました。現在は西東京市内にグループホームを3か所と、それ以外にこまごまとした事業をやっており、私の弟がリハビリの専門資格を取って家業を継ぐべく頑張っているところです。

私が弁護士を目指すようになったきっかけは

家業にも関係があります。高齢者施設の立ち上げには配置する人はたくさん要るのに利用者は少なく赤字になりがちで、私も従業員として宿直勤務等させられる事になりました。深夜に「お腹空いた」と起きてきたおばあちゃんにバナナを食べさせて寝室に戻すと、30分位してまた「お腹空いた」「バナナ食べてない」と戻ってくる。朝疲れ果てて大学に行くという事もありました。そんな中、相続の問題に直面する事が何度かありました。息子さんが入居者を公証役場に連れて行って遺言を書かせてしまう。お子さん達がそれぞれ自分に有利になるよう相手方とは会わせないようにしてくれと申し入れしてくる。預金を下ろしに入居者を連れていってしまう、等。福祉サービスだけでは高齢者が自分の気持ち通りにものごとを達成していくのが困難で、周りとの関わり合いの中で生き方の実現を考えなければならなくなった時、相続は法律の問題ですから「弁護士」という選択肢が上がってきたわけです。地位とか名誉というより、高齢者を法律に繋げていく、弁護士をうまく使えるようにする「リーガル・アクセス」の問題が契機でした。

本間先生もそうだったのですが、国の財源で動いている独立行政法人「法テラス」、半ば公務員のような組織に弁護士として所属、1年目は虎ノ門、次の3年間は「法テラス秩父」に勤務しました。どれだけ働いても給料制で定額。国が組織を立てた目的が、これまで法律サービスに触れられなかった方に触れてもらうというところにあつたのでコストは度外視。高齢者の法律相談会のために広大な秩父郡エリアを回ったりやりたい事をやらせて頂きました。

3年任期で、5年目に「次は東北」との打診があつた時、妻が妊娠していて単身赴任はどうかなど思つて法テラスを退職する事にしました。秩父では近所のスーパーに行ってもレストランに行っても裁判の相手方が居るような状態で気が休まらない。そこに住むのはなかなか辛いかもしれないと言われて、3年間、飯能に居を構えさせて頂いていたのですが、その間にすっかり気に入ってしまったのです。自然が多く子育てにもいいですし、商業施設も十分にあり生活に不便なところがない。飯能で生活出来ないかという事を考えていたのです。

埼玉弁護士会川越支部の会長に紹介を頼んで席を設け、土屋良一先生とお食事会をさせて頂きました。宴もたけなわ「先生の事務所に弁護士を1人位入れてみる気はありませんか」と伺うと「妻と長年やっているのが今更新しい弁護士を入れるような事務所じゃないよ」とのお言葉。ただ、最後に「そうは言っても飯能市っていうのは弁護士に仕事が無いっていう環境ではないんじゃないかな」というアドバイスを頂いたので事務所には入れてもらえなかったけれど飯能で一人でやってみようかという事になり事務所を開業したわけです。

現在、開業して5年程。法テラスの支部長に開所のご報告を差し上げたところ、飯能で福祉関係も含めた法律業をやるという事であれば先輩になる方だからと、私の紹介者であらせられる高橋弘先生をご紹介頂き、現在に至っているところ。成年後見の分野等の知識や経験も豊富で、いつも勉強させて頂いています。

「飯能法律事務所」は弁護士1人、事務員2人の3人体制。飯能市約8万、日高市約5万5千、計13.5万人のうち弁護士は飯能に4人、日高に0

人。専門性を謳ってやるような数ではないのでどんな事件にも対応出来る弁護士を目指して仕事をしております。そうは言っても、弁護士というのは法律の専門家というより「代理人」。その人が何かをやりたいと言ったらそれを代わりにやってあげるのが仕事で、「分野」というのはあって無きが如し。ものすごい範囲なのです。法人様では、債権回収業務のご相談／取引上のトラブル／契約書の内容チェック／労災事故の責任問題／解雇した労働者から残業代について請求された／外国人労働者のビザ・永住権取得、等。個人様では、相続問題／交通事故／離婚／借金、等。それぞれ法律が違うというのはもちろん事件一つ一つ全く違う、オーダーメイドの対応が必要だというのが弁護士業の面白いところかなと思っています。

離婚の事件も、性格が合わないから離婚したいが相手がしてくれない／浮気や暴力・暴言があった／親権／養育費の金額、等。さまざまなご意向というのがあって、その中でどういう目的を達成していくのかを一つ一つ考えながらやっていくというのが非常に面白くも悩ましいところでもあるわけです。

気をつけているのが、手癖で「これはこうだろうから」とやってしまうとどうしても実際に目の前にある案件とズレてしまうので、一つ一つの案件に好奇心をもって「これはどうしたのか」「なぜそんな事をしたのか」という事を身を乗り出すようにして話を聴いてやっていくという事なのです。また、話の内容に納得出来ないような事件、「そんな言い方はない」「その主張はおかしい」と自分が思うような事件にはなるべく関わらないようにしようという事でやっています。

RCに入会して思うのはロータリアンの方は「軽やか」。「好奇心」を非常に強くもっていらっしゃるという事です。「どんな仕事をしているの」「コロナで弁護士ってどうなの」と、常にアンテナを張って興味をもって対応されている姿勢に非常に感銘を受けております。今37歳ですので在籍50年を目指して(笑)そういった姿勢を見失わないようにやっていきたいと思っています。

仕事をやっていて非常に楽しいのが「相談している時」。相談者は「これが大事だ」という思いをもって来られるのですが案外それが実際には大事じゃないという事がよくあるのです。例えば、「残業代の請求をしたい」。よくよく聴いてみるとそもそも「働いていた」と言えるのかという事が一番の問題で、働いていた証明を社長から取り付けて来ない事には請求のしようがないという事があったり、「子の親権を絶対に取りたいから離婚の調停をするぞ」と言う父親。実際には調停なんかしてしまったら勝ち目はなくて、本当に親権を目指していくのであればお子さんを手元に置いて育てて実績を積むとか母親方のマイナスポイントを探すという事を考えなければなりません。その方々が思っているポイントにズレがあり、実際には「こういうところに気をつけてやらなければいけないですよ」とアドバイスして、悩みが解け、気持ちが晴れた時の相談者さんの顔が忘れられなくて、相談業務というのを楽しみに日々過ごしています。

居酒屋とか会々と「おい佐々木。奥さんと離婚の話してるんだけどのあたりの条件が妥当かな」とか「会社に指示を受けたんだけど言うこと聞かなくちゃいけないの」とか「こういう相手と喧嘩してて酷い事をしてやろうと思うんだけど

犯罪にはならないか」とか、四方山話をされる事があるのです。飲み会の場でそういう話はしないでくれという弁護士も居るのですが私は非常に好きで、どういう対応がベストなのかな、というのを考えて相談に乗るのが楽しくて仕方がないのです。何か気になっている事があれば、皆様のお話も聴いてみたいと思っています。

弁護士に頼むというのはそれ自体話が深刻化していて相談しづらいというのがあるかもしれませんが、法的な争い事に行ってしまった時点でものごとの解決としては失敗だと私も思います。こちらの言っている事が100%通ったとしても弁護士に報酬を払わなければならないわけですから。ただ、身に覚えがなくても相手方が居て巻き込まれる場面というのもあると思うのでそういった時には遠慮なくご相談頂きたい。また、そうならないためにも、トラブルの「種」みたいなものが遠くに見えている段階で、良ければお話を聴かせてもらえればと思っています。

最後に。交通事故で保険会社が怪我等に対して払ってくる金額は通例、所謂「自賠責保険」(国による強制加入)の中の金額で、保険会社が身銭を切らないで済む範囲のご提案がほとんどです。怪我の経緯等に不満があって弁護士さんのところに来られた場合、法的な基準に変わるので、それだけで1.5倍とか2倍の支払いを受けられる事が大半です。事故に遭われた時は保険会社の言う事に納得したかしないかではなく、一律に弁護士を入れた方が絶対得になるというのは是非覚えて帰って頂きたい。弁護士費用特約が付いていると弁護士介入にもご負担が無く気持ちよくご相談に乗れるという事になるかもしれません。

皆さんの好奇心ある姿勢に感銘を受けているのと同時に、私自身、奉仕とか社会福祉に興味がある中でRCの一員として活動させて頂ける事を非常に幸せに思っています。

◎新入会員紹介

矢島(尚)君

S49年5月、宮城県気仙沼市生まれ。46歳。地元の学校を卒業後、北海道で大学生活を過ごされました。双柳・六道信号の近く、「(株)セーフティユニオン」専務取締役としてご活躍です。職業分類は「警備業」。弊社の警備を全てお願いしており、仕事上30年来のお付き合いです。



鈴木(勝)会員

小さな港町に7人家族5人きょうだいの3番目として生まれました。姉2人と妹、弟。まん中の長男です。姉達と女の子の遊びばかりさせられていて、非常に泣き虫だった事を記憶しています。父が漁師で漁業の事しか知らない人間でしたので家族は私も漁師になるものと思っていたよう

です。しかし、気仙沼小学校、気仙沼中学校、気仙沼高校と、水産高校には進学しませんでした。理由は極度の乗り物酔いです。父親の「船外機」という小さな漁船で沖に出るとあっという間にダウンしてしまう程で、未だに社員旅行で船に乗ると一人だけ具合が悪くなってしまいます。「船にだけは乗るまい」といつの日か決めていたようです。父は海育ちで、海が大好きな人間でした。遠洋漁業等で年単位で家を空ける事が多く一緒に居た記憶があまりありません。家より海の上に居る事の方が多かったので、父の帰ってくる日が近くなると「あと何日で帰ってくる」と

毎日楽しみにしていた記憶があります。ただ、帰って来てても長くて1か月でまた1年以上居なくなってしまうので、とても寂しかったのを覚えています。父は帰ってくると昼間からお酒を飲んでいました。家族に注意されて一度は止めるのですがいつの間にか湯呑み茶碗に入れ替えてまた飲んでいるのです。家族は暗黙の了解で諦めていました。そんな父でしたが、私が23歳の時に他界しました。原因は海難事故です。海上保安庁の方々が2日間捜査し、転覆した船は発見されたのですが遺体は上がらず、父がしていた腕時計だけが引き揚げられました。あまりに突然の事でしたので亡くなったという実感が今もありません。

母はものすごく働き者でした。共働きで、母は観光ホテルの配膳係。昼間もベッドメイキング等をしていていつ寝ているのかが不思議でした。いつも笑っている、家族思いの良い母親です。父が遠洋漁業に行き、母が夜仕事に行くと、きょうだい5人だけで夜を過ごします。6つ上の姉が母親代わりになってくれていました。姉は高校卒業後、看護学校に進み、仙台の日赤病院に就職。結婚後一度辞め、子育てが落ち着くと仕事に復帰し、現在も看護師をしています。2つ上の姉も同様で、結婚後もずっと看護師をしています。3つ下の妹は看護学校の試験に落ちたのですがチャレンジしながら准看の学校に入学、苦勞しながら卒業して現在は宮城県大崎市で看護師をしています。5つ下の弟は父の希望だった水産高校に入学したのですが、何故か馬の仕事に就きたいと、卒業後、急に北海道に行ってしまいました。半年程で戻り、地元の職業専門学校に通っていたのですが、再び馬の仕事で茨城に行き、1年程でまた帰って来ました。周りの勧めもあり現在は落ち着いて介護の仕事をしています。私を除く4人が医療関係で、皆からは「あなただけ仕事の話が合わない」と言われています。父には親孝行が出来なかったのも、母ときょうだいにはせめて心配をかけず、特に母には親孝行をしたいと、最近になって思えるようになりました。

私は小5から大学までサッカーをしていました。「トップ下」というポジションが好きだったので高校からは妙なディフェンスの能力を買われ、「スイーパー」をやっていました。裏を突くところから先を読む、真逆をやる事になったわけですが、いろいろなポジションが経験出来、また、スポーツを通じてたくさんの仲間が出来た事が何よりの財産でした。

大学は札幌学院大学経済学部に進学しました。宮城では仙台に行くか関東に出る人がほとんどでしたが、ちょっと変わり者の私は「人生の中でいろんな場所に行ってみたい」「いろんな場所で知り合いをつくりたい」と考え、周りの反対を押し切って北海道に行く事にしました。船に乗らなくてもいいから漁業に携われるようにと言っていた父は「仕送りは一切しない」という条件で進学を許可してくれました。そんな状況のため、アルバイトに明け暮れた大学生活になりました。コンサートスタッフ、居酒屋店員、コンビニ深夜の店員、週6でダンプの運転、等。それでも友人に恵まれて単位は3年でほぼ取れたのですが全てぎりぎり、学業的にはあまり成果の無い大学生活でした。サッカー部にも入部せず、仲間と同好会を作って活動していました。大学進学には「教員免許」という目標が実はあったのです。中学時代に話が戻りますが、勉強が苦手

で、恥ずかしい話、中2の3学期まで勉強をほとんどせず、学内で男子107人中104位という低成績を残していました。しかし担任や部活の顧問の温かい指導を受け、中学卒業時には人並みの成績が残せるようになりました。ドラマ『教師びんびん物語』にも影響され、教職を目指すようになりましたが、最終的には学業が追い付かず、教育実習目前で挫折してしまいました。

目標も無くなり卒業後は紳士服の会社に就職。転勤がある企業なのでいろんな場所で知り合いがつかれると思い入社を決めたのですが、これが後々の失敗でした。好きな仕事で、個人売上も全体で1位を何とか取らせて頂きましたが、反面顧客が出来る度に「いつか転勤が来る」と思うと空しさを感じてしまうようになり、店舗スタッフと仲良くなるのも辛くなったため、9年在籍し6度の転勤を経験し、7度目の転勤辞令が出そうになった時に転職を決意しました。

小さな会社で、社長の考えを直接聴ける所、今までの店舗営業ではなく、自分で商機を作れる外回りの営業が出来る所を多数受け、H18年、31歳で現在の会社に就職しました。警備業の下調べはしていませんでしたので入社時はかなりのインパクトがありました。当時は類を見ない程の人手不足で警備社員の採用がままならず営業禁止になる程。初年度は月の半分を誘導員として現場に配置され、これが良い下積み経験となりました。2年目から徐々に中の仕事をできるようになり人手不足も多少解消されて営業も出来るようになりました。坂戸市に住んでいたH19年10月、「坂戸営業所」に所長として配属。いろいろ覚える事があった時期でしたが営業所を任せてもらえたので無我夢中で働きました。「警備員」は警備業法上必ず30時間(当時)の法定研修を受けなければなりません。面接を行って新人が実際に業務を行えるまで最短で1週間を要します。正直な話、不人気な業種ではありますので、求人打っても面接件数「0」というのはざらです。面接後辞退、研修後辞退も頻繁にあり、1か月以内の退職も多数あります。在職従業員を1人増やす難しさに悩みましたが職種を変えていく事は出来ません。とにかく従業員とコミュニケーションを取り個々の問題を小さなうちから解決していき、営業所全体で在籍数を40名程から90名以上まで増やしていき、その時期に顧客を増やす事が出来たのが些細な事ですが自分の中で自信になりました。

H22年6月より飯能の本社に「統括部長」という役割で戻り、その年末に引っ越して、初めて飯能市に住む事になりました。10年程ですが、住んでみたら非常に親切な方が多く、住み易いまちが気に入ってしまい、住み着いてしまいました。現在は「専務取締役」という形で在籍しております。役職に合う人間性と実力を少しでも高めていきたいと日々思っています。

RCにお誘い頂いたのも何かのご縁と思い、入会を決意しました。また“悪い癖”が出たのか、毎日同じ会社に出勤しているだけでは刺激が無く、新たな場所でたくさんの交友関係がもてる機会を与えて頂いたと感じています。新たに勉強出来る良い機会であるとも思っております。優秀な先輩方がたくさんいらっしゃいますので私の至らない点はどんどん指摘して頂ければ幸いです。皆さんに何度も名刺交換に行ってしまう等、ご迷惑をおかけする事も多々あるかと思っておりますが、どうぞよろしくお願い致します。